

# 紙季折々

しき\*ありあり

日本製紙グループ

環境・社会コミュニケーション誌

Vol.1

冬

私たちは「紙」と「森」を作っています。

紙作りには木材が必要です。そこで私たちは考えました。自分たちが使う木は自分たちで育てよう。畑で作物を育て収穫するように、植林して木を育て収穫しよう。植えて育て、成長したら収穫し、再び育てる。そのサイクルは10年。そして海外植林面積は今や16万ヘクタール(ha)に達しました。限りある資源を再生可能な方法で利用する。私たちは「紙」と「森」を作っています。

Q1 日本製紙グループが管理する森林の面積は？

- ① 約10万ha (東京23区の約1.6倍)
- ② 約19万ha (大阪府の面積)
- ③ 約26万ha (東京都の約1.2倍)

Q2 日本製紙グループが管理する森林に生える木の本数は？

- ① 1,000万本
- ② 5,000万本
- ③ 2億本以上

A 世界で5番目に面積の大きな国、ブラジル。国名は樹木のブラジルポクに由来するほど木材に関わり合いの深いこの国で、2006年12月、日本製紙(株)は丸紅(株)とともに植林・チップ生産、バイオマス燃料輸出事業をIP社のブラジル現地法人より買収しました(※)。この時点で海外の植林地面積は16.6万haに達しましたが、日本製紙グループでは国内にも9万haの社有林を保有しており、そのトータルは25.6万ha(東京都の約1.2倍)となります。

一般的に海外植林地では1ha当たり約1,000本の木が植えられており、全ての森林面積に1,000本の木が生えていると仮定すると、その数は2億6,000万本となります。日本製紙グループの従業員数は約1万3,000人。一人当たり約2万本となります。環境貢献への責務と使命を改めて実感する数値です。

※ 詳しくはホームページにて  
<http://www.np-g.com/news/>

畑で作物を育てるように木を育てる。持続可能な管理を施されている森林から木材を調達するだけでなく、自ら森を作り、そこから原材料を調達する。日本製紙グループは、それを「トゥリーファーム構想」と名付けました。つまり、木の畑です。

再生可能 持続可能な森を作る  
「トゥリーファーム構想」

日本製紙グループは、地球環境との共生に最大限配慮し、森林破壊の原因とならないよう原材料の調達を行っているのです。

※3 針葉樹：松や杉など、細い葉が特徴。  
広葉樹：針葉樹よりは幅の広い葉が特徴。紙の原料ではユーカリなど。

日本製紙グループが海外から調達する木材が森林破壊につながっていないか、さらに詳しく見てみましょう。木は、針葉樹と広葉樹(※3)に分けることができますが、現在日本製紙グループが輸入する木材チップの85%以上は広葉樹で、残りが針葉樹となっています。そこで日本製紙グループでは、大きな割合を占める広葉樹チップに関して、目標を掲げました。それは「2008年までに全ての輸入広葉樹チップを森林認証材または植林木にする」というものです。森林認証材とは、持続可能な森林経営から生産された木材です。つまり、日本製紙グループの使う輸入広葉樹チップが生まれた森は、100%また森に戻ります。また、針葉樹チップに関しては、約7割が家具や家を作るために使われる木の切れ端などで、丸太が使用される場合も、製材に利用できない細いものや曲がっているものなどが主となっています。

自然環境と共生する  
日本製紙グループの紙作り

※1 2005年「国連食糧農業機関(FAO)による世界森林資源調査報告」より。  
※2 2000~2005年の平均。

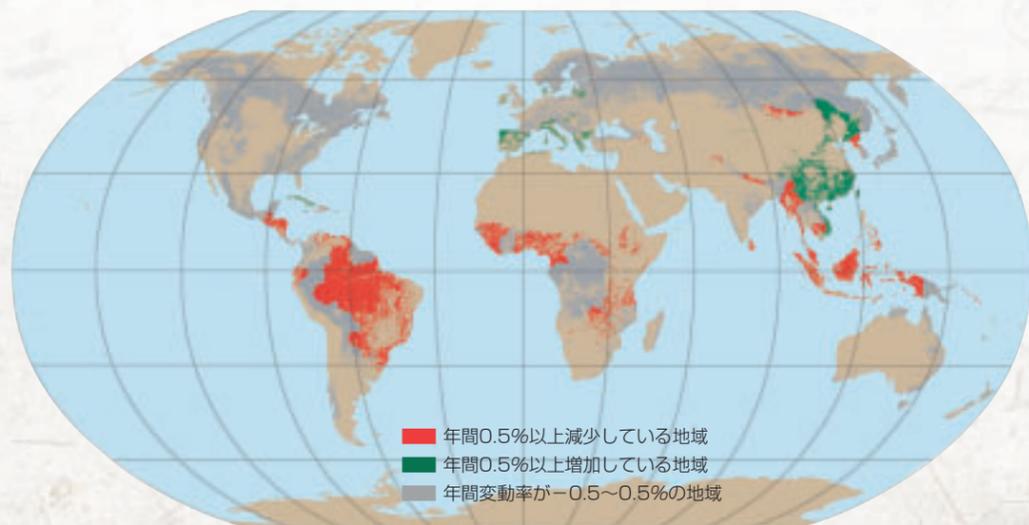


図1：世界の森林面積の変化(2000~2005)

森の恵み



西豪州(オーストラリア)の植林地

森林破壊の真実とは

豊かな自然の象徴、緑の森。陸地の約3分の1(約40億ha)(※1)はこの森に覆われています。そう聞くと、まだまだ多くの森が残されていると思われるかもしれませんが、しかし、その一方で、九州2つ分(九州全体は約370万ha)に相当する森林が毎年地球上から姿を消しているのです(年間730万ha、全森林中の0.18%)(※2)。その原因はどこにあるのでしょうか？

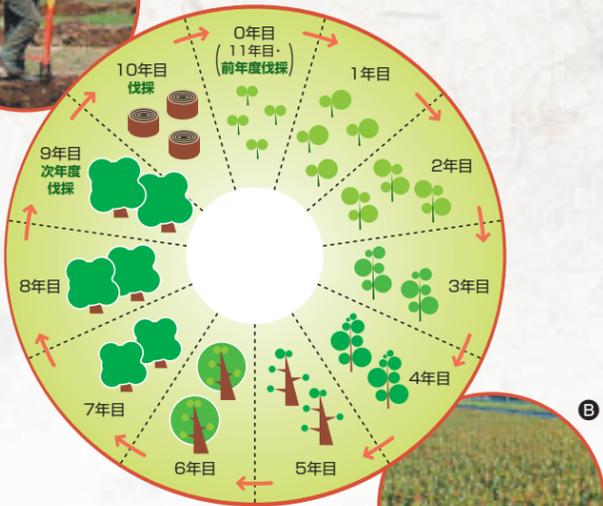
図1「世界の森林面積の変化」を見てもらうと、赤色の部分は森林が急激に減少している地域ですが、アフリカ、南米、東南アジアなど、主に赤道を中心とした熱帯地方で森林の減少が激しいことがわかります。近年の調査により、森が失われていく主な原因は、農地を作ったり、薪や炭として利用するために木を伐ることにあると言われるようになってきました。

では、紙作りの現状はどうでしょうか。現在日本の紙の生産量のうち、古紙が原材料に占める割合が何%かご存知ですか？ 正解は60%。実は紙作りは、リサイクルの優等生と言われているのです。木材に由来しているのは残りの40%。この木材についても森林を破壊しないように気を配った原材料調達が行われています。つまり紙を使うことが森林を破壊することにはならないのです。

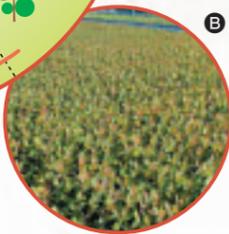
このエピソードは資源としての森林の重要性を語るとともに、土壌の保全に森林が重要であることを物語っています。さらに近年では、森林は地球温暖化の要因と考えられている二酸化炭素を吸収し、酸素を排出してくれるなどが知られており、以前にも増してその重要性が認識されるようになったのです。



図2：植林のサイクル



A 植林作業 B ユーカリの苗



多くの資源は使ってしまったらなくなりますが、木は光合成により二酸化炭素を吸収しながら成長し、何度も再生させることが可能です(図2)。そこで日本製紙グループは「2008年までに10万ha(東京23区の約1.6倍)の海外植林を行う」ことを目標として掲げました。1992年にチリでスタートした海外植林事業は、南アフリカ、オーストラリアへと広がりをみせ、ついに昨年9月、植林地面積10万haを達成。当初の目標期限を2年も早めたのです。日本製紙グループでは、さらなる目標として2015年に海外植林地面積を20万haとすることを掲げましたが、現在ではブラジルの植林地6.2万haが追加され、その面積は16万haを超えました。再生可能 持続可能な森作り「トゥリーファーム構想」は確実な成果として現れています。

環境に配慮した森作り

日本製紙グループが植林を行っている場所は、牧草地や農場、あるいは牧場跡地などが主となっています。これらの場所で植林を行うと、植林以前よりも多くの二酸化炭素がその森に蓄積されることにより、地球温暖化の防止につながります。

さらに、自然環境への配慮から、日本製紙グループは、2008年までに国内外のすべての自社植林地で森林認証の取得を目指しています。「森林認証」(※4)とは、「持続可能な森林経営」(つまり、社会・環境に配慮しながら、きちんと森林を維持・管理していくこと)を第三者の目で客観的に評価してもらい、認証を受ける仕組みのことです。日本製紙グループは、森林認証制度を有効に活用し、持続可能な森林経営を客観的にチェックしているのです。

※4 代表的な森林認証制度には、日本で知名度の高いFSC、世界の認証の約7割を占める最も普及しているPEFIC、国内独自の認証であるNGCCなどがあります。

私にとって紙質はとても大事なことです。

今や世の中は空前の掃除ブーム。その端緒を開き、先鞭をつけたのは松居一代さん。芸能界一の“お掃除名人”として注目を浴び、また筆忠実としても知られる松居さんに、紙に対するこだわりを語っていただきました。

2004年の秋に『松居一代の超おそうじ術』を出版して以来、『整理・収納術』、『お料理術』と3冊のシリーズを執筆しました。おかげさまで今でも多くの皆さんにご愛読いただいています。この3冊の本を執筆したのは1人でも多くの方にお掃除やお料理をして幸せになってくださいねというメッセージを伝えなかったからです。本のコンセプトはテレビドラマ『奥さまは魔女』。皆さんがコツをつかんでお掃除やお料理をエンジョイし、家庭にマジックのように運気を呼び込んで幸せになっていただきたいという気持ちから書き上げました。

3冊の本を作る上で重要視したことは、女性が片手で持てる重さという点です。紙というのは紙質によって全然重さが違います。そこで、皆さんが本を片手に作業ができるような重さの紙を選んであります。3冊とも同じページ数、同じ重さ、同じ定価ですが、紙質はそれぞれ違います。最初の掃除の本はコスト的に適正価格の紙を使っています。この本がベストセラーになって、2冊目は皆さんに感謝の気持ちを込めて、値段的にも紙質的にもよりよいものにしてあります。そして、3冊目は料理の本ですから写真がもっとクリアになるようにさらにグレードアップしています。紙を秤の上に乗

PROFILE

まつい かずよ

1957年滋賀県生まれ。テレビ・映画などで活躍中。また、処女作『隆一の凄絶アトビー日記』（主婦の友社）の出版を機に“元氣配達人”として全国各地で講演活動を行う。現在は芸能界一の“お掃除名人”としても活躍。



せて、皆さんに片手で愛読していただけることを夢見ながら紙質を選びました。

本もそうですが、私は年間700通ぐらいの手紙を書きますから紙にはすごくお世話になっています。使っている便箋は私の郷里で作っている葦を原料としたものです。非常に墨の吸収がいいんです。毛筆文字は同じ腕であっても上手く見える紙と、そうでない紙があって、私はとにかく上手く見える紙を厳選しています（笑）。限りある資源と自然環境を大事にしないといけませんから、失敗はゆるされません。だから一筆入魂です。今はメールなどで簡単にコミュニケーションができる時代ですから、毛筆の手紙というものは重く見ていただけるので信頼関係ができるんですね。だから、ほんとうに紙には感謝しています。



年間700通ぐらい書くという毛筆の手紙。便箋は松居さんの郷里で作られている葦を原料としたもの。

CSR担当役員からの挨拶



取締役CSR担当 長谷川 昇

環境・社会コミュニケーション誌「紙季折々」を創刊しました。

創刊第1号では、私たちと関わりの深い森林環境をテーマにお届けしました。森は私たちにかけがえないものであり、その森林が失われていくのは残念でなりません。その一方で木は本文でも紹介した通り、多くの鉱物などの有限な資源とは違い、伐採した後も光合成により再生する無限の可能性を秘めた自然の恵みなのです。私たちはこの貴重な資源を有効に利用し、紙作りを行っています。

次号以降もいろいろなテーマを取り上げて、当社の取り組みを紹介していきます。私たちはより良い経営を行うため、皆さまに当社の取り組みを知ってもらった上で、そのご意見を経営に反映させていく必要があると考えています。ぜひご意見・ご感想、そしてご要望などをお聞かせください。

編集後記

「紙季折々」では、紙作りを中心に幅広い事業展開をしている日本製紙グループの環境や社会に対する取り組みを、春・夏・秋・冬の四半期ごとに紹介していく予定です。

創刊にあたり、「マツイ棒」や「マツイぞうきん」などのお掃除グッズを日本製紙クレシア（株）と共同開発していただいた松居一代さんにお話をうかがいました。お会いした松居さんはとても情熱的で行動的な方でした。ご自身の著作は読者が掃除をしたくなるように、「マツイ棒」の開発に当たっては利用する人が使いやすい形での商品化を望んでいました。周りの人が少しでも掃除好きになってくれればというその思い、そして有り余るほどの松居さんのパワーを感じた私も家に帰り、早速掃除を試してみました。（ササマ）



お問い合わせ先



会社名 株式会社日本製紙グループ本社 CSR室  
 本社 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-12-1（新有楽町ビル）  
 TEL: 03-3218-9321 FAX: 03-3216-1366 E-mail: env@np-g.co.jp  
 ホームページ <http://www.np-g.com/inquire/>（お問い合わせ）  
<http://www.np-g.com/appliform/>（資料請求）

※当社では、環境と社会への取り組みをまとめたサステナビリティレポートを発行しています。ご希望の方はホームページ（資料請求）より、またご不明な場合にはお電話にてお問い合わせください。

グリーン・プロポーション



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%